

# 画像診断の はなし



## 最新の血管造影装置を 導入しました



診療放射線部  
鈴木 雅己

血管撮影検査は、心臓、頭部、腹部などの診断および治療のために用いられます。今年9月に長年にわたり活躍していた血管造影装置が更新され、新しくバイプレーン方式（正面と側面を同時に撮影できる）の装置が導入されました。

シーメンス社製の Artix Zee BA（アーティクス・ジー・ビーエー）というドイツ生まれの装置です。

今回は、この装置に搭載されている多彩な機能と特長について説明させていただきます。

**バイプレーン**：以前の装置はシングルプレーンという、X線発生器とX線を検出し画像化する検出器が1組しかない装置でした。今回の装置は、バイ（bi=2倍）プレーン（plane=面）、つまりX線の発生器と検出器の組み合わせが2組あり、2方向同時撮影が可能になりました。

**フラットパネル（平面）検出器**：今まで以上に高画質な画像の提供が可能になり、検査の精度が向上しました。

**DSA撮影（デジタル差分化血管撮影）**：骨などの血管描出の障害となるようなものを取り除き、血管のみを描出させる機能です。

**ステップングDSA撮影**：そのDSA撮影が足の付け根から足先まで可能になりました。

**最新の3Dワークステーション**：血管の3次元（3D）画像や、CTスキャンのような多方向の断面画像が得られる回転撮影、さらに、得られた3次元の血管画像を元に血管の地図を作成し、その地図上でカテーテル操作や血管用コイルで動脈瘤などの病変を治療することが可能になりました。

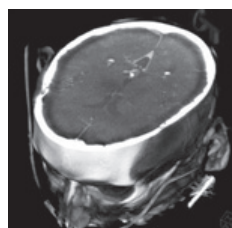
●2方向同時に撮影できることにより、検査および治療時間の短縮を図ることが可能になりました。特に、難しい病変に対する治療の時、2方向同時撮影や同時透視により、以前よりも迅速かつ確実に完了することが可能になりました。

●造影剤の使用量も少なくすることも出来るため、患者様への負担も以前より減らせるようになりました。

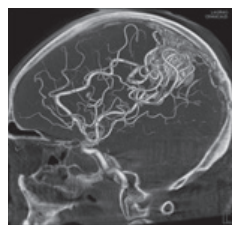
ただし、どんなに良い装置があっても、上手に使いこなせなければ、意味はありません。放射線技師として、血管造影室において、患者様および術者被曝の軽減を図り、良い画像を提供し、検査および治療に貢献できるよう、日々精進していきます。



バイプレーン方式血管撮影装置の本体です。C型のX線発生器が2つあります。



回転撮影により作成した画像です。CTのような輪切り画像もできます。



回転撮影にて作成した3次元の頭部血管画像です。いろいろな方向から見る事ができます。